

SGH に指定された広島女学院がめざす、グローバル人材像＝「核の惨禍のない世界を創り出すしなやかな女性」

「ヒロシマ」を継承・発信し、世界の平和構築に貢献するリーダーとなる生徒を育成。リーダーに必要な三つの力、平和観・対話力・リーダーシップを養うカリキュラム“Peace Studies”を実行。

平和観

平和を共に創るという視点から、世界を見る力。国内外の様々な社会問題に目を向け、深い探究心と強い使命感を持ったグローバル・リーダーを育成する。

対話力

価値観の違う他者と、コミュニケーションをとる力。考え方の違う相手を認め、コミュニケーションを通じて相手の考えを理解し、自分の考えを発信することができるグローバル・リーダーを育成する。

リーダーシップ

他者と合意を形成し、それを実行する力。集団の中で主体的に議論を導き、考えの違う相手ともお互いに納得できる結論を出し、それを実行に移すことができる行動力を持ったグローバル・リーダーを育成する。

各学年の総合学習の時間に、“Peace Studies”を行う。学年ごとに徐々にテーマを世界へ広げ、学びから実践に高めることで、生徒の平和観・対話力・リーダーシップを段階的に成長させていく。Peace Studies と関わりの深い海外派遣プログラムを行うとともに、海外から本校に中高生を招聘するフォーラムを開催する。Peace Studies の時間は、生徒の主体的な学びを中心として展開する。教師による一方的な講義形式でなく、生徒が自分でテキストを読み、説明し合い、議論し合う。「正解」の無い内外の課題を論理的に考え、自分なりの意見を持ち、それを他者と伝え合いながら具体的な実践に移せるようにする。

学習を通じて、生徒の世界観・価値観を広げる出会いを提供する。従来以上に充実した国内外の研修に加え、新たに海外研修(希望者)を立ち上げる予定である。学習の中に、国内外のゲストスピーカーを多数招聘する。

学年	Peace Studies の学習内容	国内外の研修・外部との連携	三つの力の成長	教科教育と融合
中1	ヒロシマ、広島女学院の被爆 『夏雲』や資料を通じて、被爆者や被爆者家族の心情に触れる。核兵器の悲惨さを学び、核兵器の非人道性について考える。	平和祈念資料館見学 ：調べ学習のためのフィールドワーク 被爆者の卒業生の話聞く	主体性へのめざめ 自己肯定感	国語・英語 日本語英語双方で、論理的に読み・書き・聞き・伝える力を育成 理科・社会 生徒が主体的に必要な知識を獲得 情報 IT を駆使したプレゼンスキルを育成 聖書 国内外の社会課題を独自教材で深く探求
中2	いじめについて “クラスに平和をつくりだす”という観点で、いじめについて考える。お互いが安心して学校生活ができるクラスづくりを、生徒自身で実践する。 世界の多様な原爆観 海外(アメリカやアジア諸国)の人々は原爆をどのように見ているのかを学び、世界と日本(ヒロシマ)の違いを認識する。	韓国研修 ：原爆についてプレゼンテーションを行い、現地の学生と「平和」について意見を述べ合う。双方の意見の相違や一致を認識し、どうすれば相互理解が可能か考える。	グループのリーダー クラスメートとの協力	
中3	多文化共生・異文化理解－在日コリアンについて ヘイトスピーチなど現代社会の差別の現状をふまえ、異なる背景をもつ人々と社会の中で協力し合っていくには何が必要かを考える。 核兵器を廃絶すべきか 議題についてディベートを行う。生徒には機械的に賛否を割り振る。ディベート終了後、生徒に自由に賛否の立場を選ばせ、自分の意見とその根拠を小論文にまとめる。その学習の一環として、核抑止論、日本の戦争責任、長崎の被爆について学ぶ。	キルヴィントン高校 ：現地でヒロシマについてプレゼン マウントユニオン大学 ：現地でヒロシマについてプレゼン、大学で平和学受講 長崎研修旅行 ：従来の学習の中に、iPad など新しい方法を導入 ミャンマー研修 ：JICA の活動体験、現地校で交流・プレゼン	チームのリーダー 意見を戦わせ論理的に争点を理解	
高1	平和共創プロジェクト 国内外で平和構築が必要な事例を設定し、問題発見と問題解決のためのリサーチを行なう。テーマとしては、カンボジア内戦や日韓問題、部落差別問題、「フクシマ」の問題を取り上げる。生徒主体で学習し、知識をシェアする。現地の若者と直接出会い、お互いの抱える問題を共有し、お互いの問題の解決のために協力できることはないか話し合い、実行に移す。	カンボジア研修 ：ヒロシマを伝えるとともに、内戦について学びあう 韓国研修 ：中2とともに派遣 ハイスクールサミット in 東北 ：震災被害の克服について議論	プロジェクトのリーダー 仲間をまとめ、議論を実践に移す	
高2	沖縄の地上戦・基地問題 沖縄の抱える課題に対して解決策を考えさせ、プレゼンにまとめる。自分の国や社会が抱える問題に向き合い、自分なりの考えのもとに政策を考えることができるようにする。 多文化共生社会 グローバル化が一層進展する社会の中で、バックグラウンドの異なる者同士が共生する社会をつくるためには何が必要かを考える。	沖縄研修旅行 ：沖縄尚学の生徒と意見交換する 国際会議への派遣 ：生徒を選抜し、モントレイ国際大学院やNPT 再検討会議などへ派遣 Peace Forum ：研修に参加した本校生徒を中心に運営。海外からの参加者とともに平和についてプレゼン・討論する	社会のリーダー 考えの対立を乗り越え社会に平和を提案する	
高3	核兵器を廃絶すべきか 核兵器保有国、核兵器開発途上の国、非核保有国で核の傘の下にある国、非核地帯の国などの役割を生徒に与え、それらの国の立場についてリサーチさせる。その上で各役割を担った生徒が模擬国連形式で議論し、決議に持ち込む。議論を経て、各自が研究論文を作成する。		グローバル・リーダー 世界の平和に貢献するという使命感をもつ	